

第10章 つるかめ算・過不足算

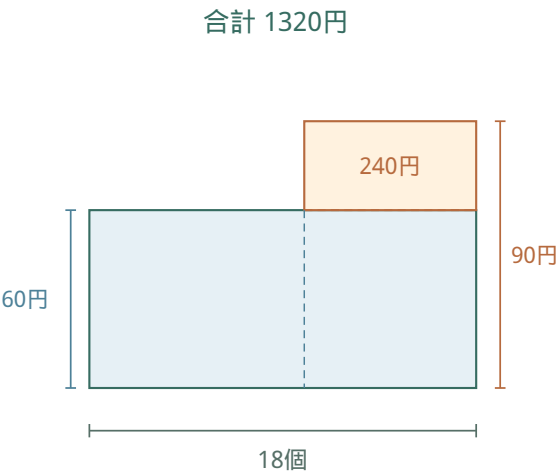
答え・解説

①②③は考える手順です。下の答え欄の(1)(2)は問題の番号です。

01 2種類の消しゴム

基本

- ① 全部が60円なら、 $60 \times 18 = 1080$ 円です。実際との差は $1320 - 1080 = 240$ 円。1個を90円にかえると $90 - 60 = 30$ 円増えるので、90円の消しゴムは $240 \div 30 = 8$ 個です。
- ② 合わせて18個なので、60円の消しゴムは $18 - 8 = 10$ 個です。確かめると、 $90 \times 8 + 60 \times 10 = 1320$ 円になります。



1つかえると 30円 増える
 $240 \div 30 = 8$

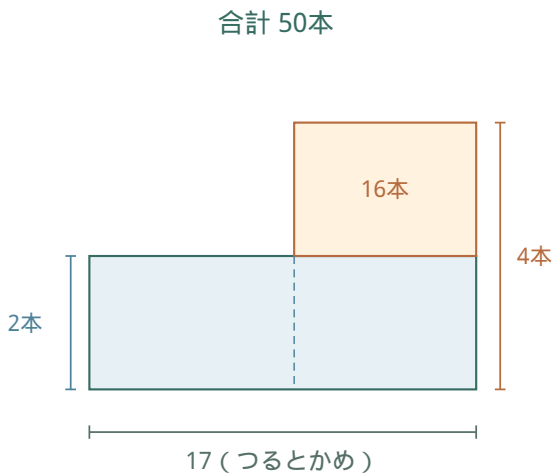
答え

(1)	8	個	(2)	10	個
-----	---	---	-----	----	---

02 つるとかめの足

基本

- ① 全部がつるなら、足は $2 \times 17 = 34$ 本です。実際との差は $50 - 34 = 16$ 本。つるを1わ減らしてかめを1ぴき増やすと、足は $4 - 2 = 2$ 本増えます。かめは $16 \div 2 = 8$ ひきです。
- ② 数の合計が17なので、つるは $17 - 8 = 9$ わです。足を確かめると、 $4 \times 8 + 2 \times 9 = 50$ 本になります。



1つかえると 2本 増える
 $16 \div 2 = 8$

答え

(1)	8	ひき	(2)	9	わ
-----	---	----	-----	---	---

第10章 つるかめ算・過不足算

答え・解説

①②③は考える手順です。下の答え欄の(1)(2)は問題の番号です。

03 あまりと、ちょうど

基本

- ① 1人に配る数を $6-4=2$ 個ずつ増やすと、あまっていた18個がなくなります。子どもは $18\div 2=9$ 人です。
- ② 6個ずつでちょうどなので、あめは $6\times 9=54$ 個です。
4個ずつなら $4\times 9=36$ 個を配り、 $54-36=18$ 個あまります。



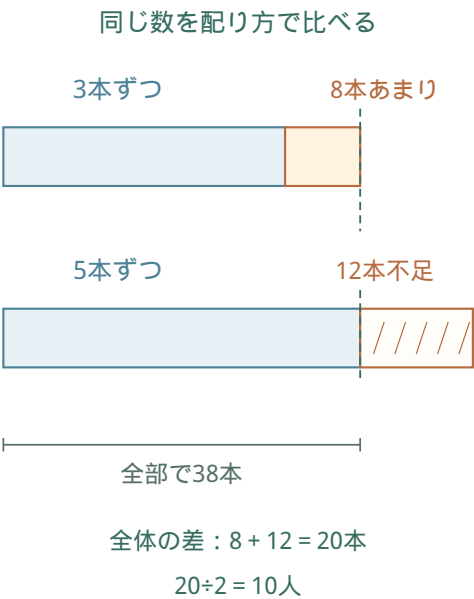
答え

(1)	9	人	(2)	54	個
-----	---	---	-----	----	---

04 あまりと不足を比べる

基本

- ① 3本ずつから5本ずつにすると、全体で $8+12=20$ 本多く必要です。1人分は $5-3=2$ 本増えるので、子どもは $20\div 2=10$ 人です。
- ② 3本ずつ配った分に、あまりを足します。
 $3\times 10+8=38$ 本です。5本ずつの場合でも、
 $5\times 10-12=38$ 本になります。



答え

(1)	10	人	(2)	38	本
-----	----	---	-----	----	---

第10章 つるかめ算・過不足算

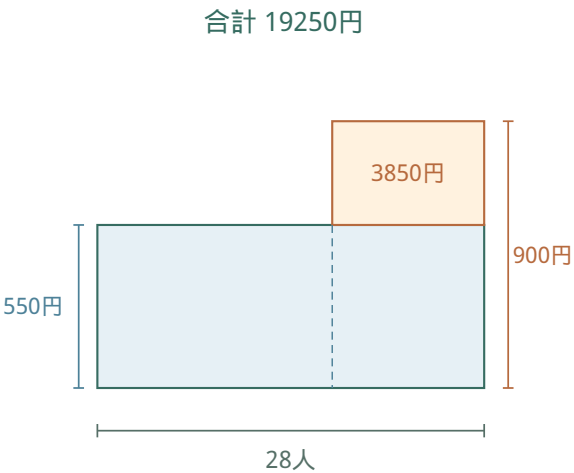
答え・解説

①②③は考える手順です。下の答え欄の(1)(2)は問題の番号です。

05 大人と子どもの入場料

標準

- ① 全員が子どもなら、 $550 \times 28 = 15400$ 円です。実際との差は $19250 - 15400 = 3850$ 円。1人を大人にかえると $900 - 550 = 350$ 円増えるので、大人の人数は $3850 \div 350 = 11$ 人です。
- ② 子どもは $28 - 11 = 17$ 人です。 $900 \times 11 = 9900$ 円、 $550 \times 17 = 9350$ 円で、合わせて19250円になることも確かめられます。



1つかえると 350円 増える
 $3850 \div 350 = 11$

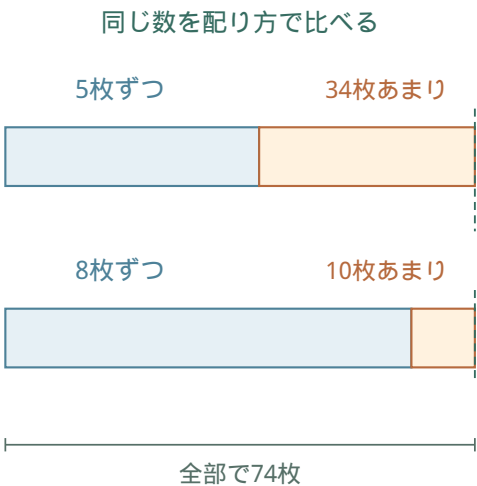
答え

(1)	11	人	(2)	17	人
-----	----	---	-----	----	---

06 どちらもあまるとき

標準

- ① あまりは $34 - 10 = 24$ 枚減りました。1人に $8 - 5 = 3$ 枚ずつ多く配ったからなので、子どもは $24 \div 3 = 8$ 人です。あまり同士は、差を使います。
- ② カードは $5 \times 8 + 34 = 74$ 枚です。8枚ずつ配る場合でも、 $8 \times 8 + 10 = 74$ 枚になります。



全体の差： $34 - 10 = 24$ 枚
 $24 \div 3 = 8$ 人

答え

(1)	8	人	(2)	74	枚
-----	---	---	-----	----	---

第10章 つるかめ算・過不足算

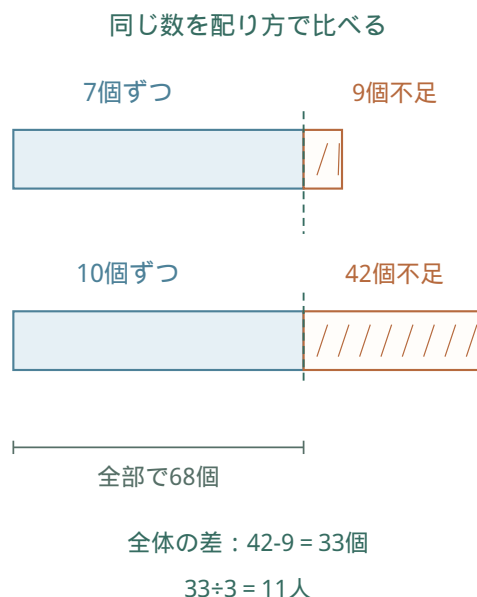
答え・解説

①②③は考える手順です。下の答え欄の(1)(2)は問題の番号です。

07 どちらも足りないとき

標準

- ① 不足は $42-9=33$ 個増えました。1人分が $10-7=3$ 個増えたからなので、子どもは $33\div3=11$ 人です。不足同士も、差を使います。
- ② 全員に7個ずつ配るには $7\times11=77$ 個必要です。実際は9個足りないので、 $77-9=68$ 個です。 $10\times11-42=68$ 個でも確かめられます。



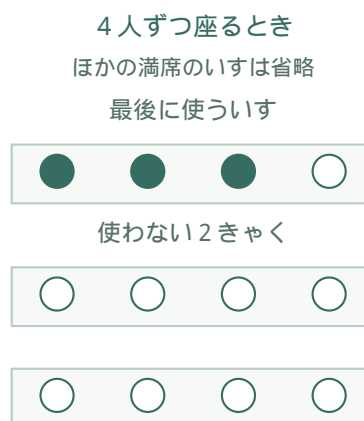
答え

(1)	11	人	(2)	68	個
-----	----	---	-----	----	---

08 長いすに座る

標準

- ① 4人ずつ座ると、使わない2きやくで $4\times2=8$ 人分、最後のいすで $4-3=1$ 人分、合わせて9人分の席があきます。
- ② 3人ずつの不足7人分と合わせると、席の数の差は $7+9=16$ 人分です。1きやくにつき $4-3=1$ 人増えるので、いすは $16\div1=16$ きやくです。
- ③ 子どもは $3\times16+7=55$ 人です。4人ずつなら13きやくに52人、最後に3人で55人となり、2きやく使わずに残ります。



空き: $1+4+4=9$ 人分
いす: $(7+9)\div1=16$ きやく
3人ずつでは7人が座れない

答え

(1)	16	きやく	(2)	55	人
-----	----	-----	-----	----	---

第10章 つるかめ算・過不足算

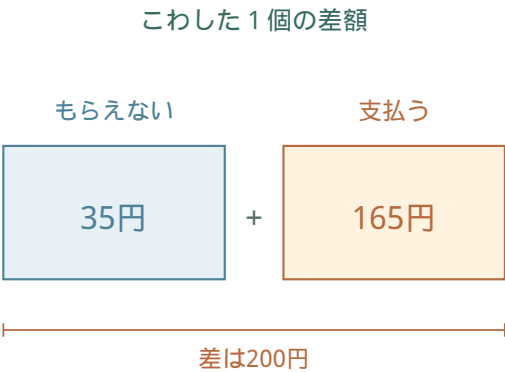
答え・解説

①②③は考える手順です。下の答え欄の(1)(2)は問題の番号です。

09 こわした荷物の弁償

応用

- ① 無事ならもらえる35円がなくなり、さらに165円を支払います。無事な1個との差は $35 + 165 = 200$ 円です。弁償する165円だけで考えないようにしましょう。
- ② 全部無事なら、 $35 \times 80 = 2800$ 円です。実際との差は $2800 - 1600 = 1200$ 円。1個こわすごとに200円少なくなるので、こわしたのは $1200 \div 200 = 6$ 個です。



全部無事： $35 \times 80 = 2800$ 円
 $2800 - 1600 = 1200$ 円の差
 $1200 \div 200 = 6$ 個

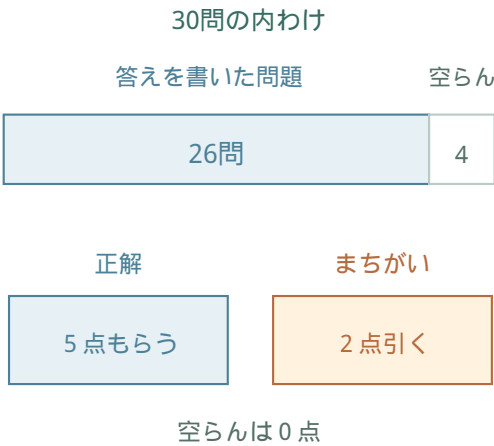
答え

(1)	200	円	(2)	6	個
-----	-----	---	-----	---	---

10 空らんのあるテスト

応用

- ① 答えを書いたのは $30 - 4 = 26$ 問です。全部正解なら $5 \times 26 = 130$ 点。実際との差は $130 - 88 = 42$ 点です。1問まちがえと、5点をもらえず2点引くので、差は7点。まちがいは $42 \div 7 = 6$ 問です。
- ② 答えを書いた26問から、まちがえた6問を引きます。 $26 - 6 = 20$ 問が正解です。 $5 \times 20 - 2 \times 6 = 88$ 点で、空らん4問も合わせると30問になります。



1問の差： $5 + 2 = 7$ 点
 $42 \div 7 = 6$ 問がまちがい

答え

(1)	6	問	(2)	20	問
-----	---	---	-----	----	---

第10章 つるかめ算・過不足算

答え・解説

①②③は考える手順です。下の答え欄の(1)(2)は問題の番号です。

11 3種類のノート

応用

- ① 60円2冊と120円1冊を1組にすると、3冊で
 $60 \times 2 + 120 = 240$ 円です。90円3冊の270円より30円安くなります。
- ② 全部90円なら $90 \times 30 = 2700$ 円、実際との差は
 $2700 - 2520 = 180$ 円です。1組で30円安くなるので、
 $180 \div 30 = 6$ 組。120円は1組に1冊で6冊です。
- ③ 60円と120円は、1組3冊が6組で18冊です。残りが
90円なので、 $30 - 18 = 12$ 冊です。

1組3冊で考える



$$1 \text{ 組} : 60 \times 2 + 120 = 240 \text{ 円}$$

90円3冊なら270円

1組にすると30円安くなる

$$(2700 - 2520) \div 30 = 6 \text{ 組}$$

120円は、1組に1冊

答え

(1)	6	冊	(2)	12	冊
-----	---	---	-----	----	---

12 配り方と2種類の代金

入試チャレンジ

- ① 3冊ずつと5冊ずつでは、必要な冊数の差は
 $14 + 10 = 24$ 冊です。1人分の差は $5 - 3 = 2$ 冊なので、子どもは $24 \div 2 = 12$ 人です。
- ② ノートは $3 \times 12 + 14 = 50$ 冊です。全部80円なら
 $80 \times 50 = 4000$ 円で、実際との差は $4720 - 4000 = 720$ 円です。
- ③ 1冊を120円にかえると $120 - 80 = 40$ 円増えるので、120円
は $720 \div 40 = 18$ 冊です。残り32冊は80円で、
 $120 \times 18 + 80 \times 32 = 4720$ 円と確かめられます。

同じ数を配り方で比べる



$$\text{全体の差} : 14 + 10 = 24 \text{ 冊}$$

$$24 \div 2 = 12 \text{ 人}$$

答え

(1)	12	人	(2)	18	冊
-----	----	---	-----	----	---